

臨時の聖年開幕

法王フランチェスコの希望によって、昨年12月8日に臨時の聖年が開催された。聖年は1300年、法王ボニファチス8世によって始められた。初めの頃には100年に一度、そのうち50年に一度となり、今は正式には25年に一度となっている。しかし、法王としては自分の在任中に開催したいという思いを持つ人もいた。例えば現法王がその一人である。現法王は、自分が生きていられて、法王の任務を遂行出来るのはあと2〜3年と考えているようだ。その間に聖年を実施し、キリスト教の教えをもう一度しっかりと身につけるようにしたいという希望があるようである。

最近では正式の聖年は、1975年パオロ6世在任中に、2000年にはヨハネ・パオロ2世在任中に行われている。臨時の聖年が開かれたのは、1933年に法王ピオ11世の時に初めて開かれ、次に1966年パオロ6世が続き、1983年ヨハネ・パオロ2世在任中に開かれた。今回の聖年の特色は標語を決めたことだ。今までの聖年では標語はなかったのである。それは *misericordia* (哀れみ、慈悲、同情) である。この臨時の聖年は本年の11月20日まで続く。

聖年には聖なる扉が必ずある。巡礼者はその聖なる扉を通ると持っている罪が許されるという信仰があるためだ。これまで、ローマを訪れてローマの4大教会の聖なる扉を通ればよいと言われていた。しかし今回、現法王によって、その聖なる扉の数が増やされた。ローマの4大教会の他に、中央アフリカ共和国のバングイの聖堂の扉、ローマの南にあるディヴィーノ・アモーレ会の扉、終着駅(テルミニ駅)の近くのマルサーラ通りにあるカリタスの園、ドン・ルイジ・ディ・リエグロ教会の聖なる扉が追加された。

12月8日、先ずサン・ピエトロ教会の聖なる扉を、次いで、12月10日サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ教会、サン・パオロ教会、12月18日にはルイジ・ディ・リエグロ教会、12月31日にはサンタ・マリア・マジョーレ教会の聖なる扉が法王直々に開けられた。ディヴィーノ・アモーレ会の扉だけは法王の代理によって開けられた。

昨年の11月13日のパリでの同時テロ事件で、人の集まる場所は軍人、警官による警戒が一段と厳しくなった。そのために、本来であれば、多くの信者があちこちの教会で大勢集まるはずのところであったが、今回は法王の顔を見よう、話を聞こうと集まった人は、予想を遥かに下回った。どこの教会へ行っても、警戒中の警官の方が多くて、信者の方が少なかったと言われている。

Misericordia という言葉は、現在ではほとんど忘れ去られた言葉のように考えられていた。それが法王のお陰で大きく復活したようである。慈悲というものは、他者に、貧者に、被搾取者に、疎外者に、見捨てられた人に、刑務所や路上で寝る人に、亡命者に、難民に向けられるべきだ。福音を伝えるべきだ。慈悲は、痛みを抱えている場所に、その痛みを和らげ、たすけるために人を送る

ものである。その良き例が、ドン・ニョッキであり、ドン・ボスコであり、ドン・ベンジ等といった人たちである。

さらに *Misericordia* とは、反抗の言葉をすぐ忘れ、他者をすぐに分ろうとすることである。*Misericordia* とは対話である。主イエス・キリストの慈悲は偉大である。慈悲をもって神に似たものになろう、ということなのだ。

また、機密文書の流出

昨年10月の末から11月の初めにかけてヴァチカン揺るがす大きなスキャンダルが発生した。これはヴァチカンの財政問題に関してである。ヴァチカンの内部の人間から外部に資料が流失し、ヴァチカン内部の財政問題が明るみになったことである。これらの出来事は2冊の本として出版され、それぞれ11月4日と5日に一般に販売されている。

出版された2冊の本のうち、一つはジャンルイジ・ヌッツィ著『Via Crucis』で、もう1冊はエミリアーノ・フィッティパルディ著『Avarizia』というものである。



『Via Crucis』(左)と『Avarizia』(右)

ヴァチカンでは、ヴァチカンの財政に関する内容のものが本として発売されるということに驚き、ヴァチカン警察によって捜査が進められていた。犯人として11月3日には2人が逮捕された。一人は現役のヴァチカンの経済事業省の長官のスペイン人神父(54歳)で、ヴァチカン内の牢獄に収監された。もう一人は、フランチェスカ・インマコラータ・シャオクイ(33歳)という在家信者の女性である。

彼女は神父と同じ事務所に勤めていた。彼女はヴァチカン警察に2回逮捕されたものの、調べについては今後協力するということで2回とも釈放されていた。

しかし、捜査は11月の末から12月の初めにかけて、急展開した。女性の夫コラード・ラニーノが逮捕されて情勢がガラッと変わったのである。彼女とは11年前に結婚している。彼は秀才で、特にIT関連事業でその無類の才能を発揮しており、経済事業省のIT情報の一切を掌握していた。そこへ外部の手が伸びて来たのだ。シャオクイは夫を悪の道に引きずり込み、情報を提供させ、それを外部に流すように仕向けたということのようである。夫が逮捕され、もちろん彼女も3度目の逮捕となり、刑に服す身となった。